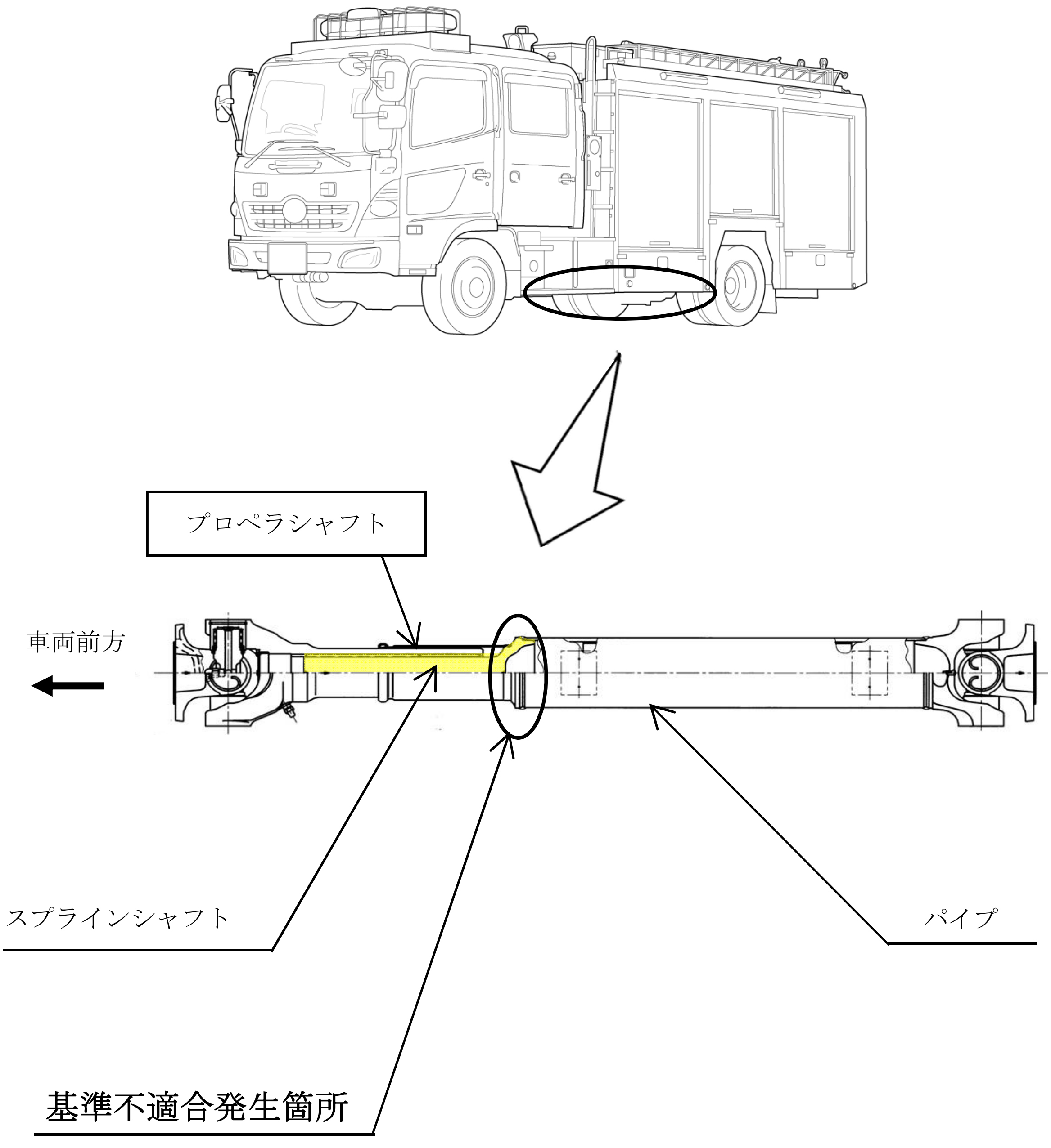
改善箇所説明図



プロペラシャフトにおいて、エンジンとプロペラシャフトの共振に対する強度が不足していたため、特定の回転数で使用するとプロペラシャフトのパイプとスプラインシャフトの溶接部に過大な曲げ力が加わることがある。そのため、当該溶接部に亀裂が入り、最悪の場合、プロペラシャフトが折損・脱落し、走行不能となるおそれがある。

注:［　　　］は交換部品を示す。

改善の内容

全車両、プロペラシャフトを対策品と交換する。

識別　:　プロペラシャフトのパイプ部に黄色ペイントを塗布する。